



【ご挨拶】 今年の漢字は「金」だったそうで、東京オリンピックで金メダルを多く獲得したことによるそうです。そのまま“きん”と読めばいいけど“かね”とも読める漢字。給付金のばらまきと無駄な経費、政治家の金銭感覚の欠如は相変わらずで、今年もお金にまつわる話題は事欠きませんでした。コロナウィルスも感染者の減少が続き、年末年始にむけて飲食店なども活気が始まってきたと思ったら、急にオミクロン株といった変異株が出現して世界的に感染拡大しつつあり、油断が出来ません。色々あったけど、ごっつい悪い年ではなかったように思いますが、皆さんはどんな一年でしたか？

【久斗山 (Mt.Kufosan)671m山頂】

新温泉町と香美町との町境に連なる山々に、当地区と同じ名前の山があります。中小屋のワシン谷の源流に位置する山ですが、登った事が無かったので、雪が降る前の今の時期に挑戦してきました。朝、余部のアセビ谷から蓮台山(628m)に登り、尾根づたいにカサハ山を経て、久斗山(671m)の頂上に昼過ぎに立つことができました。山頂には二等三角点がありました。ブナ林の木の間ごしに余部鉄橋や海が見え、十分楽しめる山でした。



久斗山(標高671m)の山頂にある二等三角点(12月9日)

【大杉神社、しめ縄も新しく】

12日の午前8時より、久斗山すこやかクラブの皆さんが、それぞれ藁を持ち寄り、大杉神社のしめ縄を作る作業を行ないました。鳥居に飾る長さ3mの大しめ縄は、荒縄を芯に太い藁束を3本作り、それをねじりながら撚り合わせていきます。6~7人がかりで、力とお互いの協力がある大変な作業でした。下に吊す房や四手は別で作り、大しめ縄に取り付けて、最後にビニールの雨よけをかけて完成です。他に社殿の前と、大ヒノキの幹に巻く長さ約6mのしめ縄も出来上がり、神社総代や区長ら5人で付け替えに行きました。

神社の境内にあるお稲荷さんの赤い鳥居は、長い年月の間に根元部分が腐食しており、倒壊する恐れがあるため、今年度新しく作り変えました。また、大ヒノキの周囲も、シカの食害や吉兆を占う酒壺が悪さされないよう、金網でがっちり囲われています。19日には、村の周囲にある7谷から水を汲んで、新たな濁酒の仕込みが行なわれたそうです。近在で、しばらく大きな災害が起こっていないのは、大杉さんが護ってくれているおかげだと思います。来年も、どうぞ良い年になりますように。



【今年（令和3年度）を振り返る】

今年も残りわずかになり、この一年を振り返ってみました。

1月：新年早々から大雪になりました。

2月21日：動物の足跡をさがそう

スノーシューで雪上ハイキングして、お昼は豚汁とシカ肉でした。

3月20日：春の食べれる野草さがし

山菜を探し、天ぷらにして食べました。

4月18日：春の里山生き物観察とお花見

ミソシ混じりの悪天候で中止。

5月16日：春の遠足～地域探訪～ 安泰寺まで遠足しました。

6月19日：夜のホタルとカエル観察会

浜坂青推協との連携事業で多くの参加がありました。

7月17日：資源ゴミ回収

8月22日：川遊び&生き物観察&魚取り（コロナで中止）

9月11日：夜に鳴く虫の観察会

10月17日：木のみさがしと飯ごうすいさん

11月17日：地域探訪 紅葉の創造の森遠足

12月18日：ツル籠つくりと里山探検（悪天候で中止）



【栢餅生産急ピッチ、久斗山農産加工組合】

今、久斗山農産加工組合では栢餅の生産で忙しくしています。これからお正月を控え、多くの注文がきているそうで、連日、生産に追われているとの事でした。ご苦労さまです。



【今年は暖冬？遅い初雪】

17日の午後から寒波が覆い、18日朝は積雪が3cmありました。やっと初雪です。一昨年は6日、ドカ雪だった昨年は14日の日中から雪、今年は更に4日遅い今年も大雪との予報でしたが、案外、大したことないのかな？



【猪・鹿、獲っても獲っても減らず！】

創造の森の広場に設置された大型のセンサー付き囲い罠に、14日、若い牡シカが1頭捕獲されました。この罠に、今年10頭、久斗山全体では100頭近く捕獲されていますが、減りませんね～



○令和4年 1月の行事

1日(土) 元旦 初詣

7日(金) とんど焼き

16日(日) 数珠くり

16日(日) 「鳴滝目指してかんじきハイキング」(9:30~15:00 上山高原エコミュージアム)

22日(土) 久斗山自然教室「かまくら作りと雪遊び」(13:30:00~16:00) 久斗山地区公民館



うわので体験！

お手軽スノーシューツアー

スタッフがご案内します(希望者のみ)

○日程：令和4年1月10日(月祝日)

～ 3月(雪が無くなるまで)

※土曜日は除く

※天候や積雪状況により中止する場合があります。

○時間：受付13:00～13:20

開始13:30 解散15:00

○定員：10名以内(1家族か1グループ)

○料金：大人(18歳以上)1,000円

子供650円(※レンタル料含む)

・防水性の服装、靴、帽子、手袋

・飲み物、タオル、着替え、ディパックほか

【問合せ・申込み先】

兎和野野外教育センター

TEL0796-94-0211 mail:info@uwano.jp



オニシバリの蕾

今月の野草(木)

オニシバリ

草も枯れて、何も無い冬の林内を歩いてみると、緑の葉っぱが目につきました。先の方に黄色の蕾がかたまっているように見えます。草ではなく背の低い木でした。鬼を縛れるほど樹皮が強い。沈丁花(じんちようげ)の仲間、早春に咲く花の形はよく似ています。夏に葉を落とし、他の木が落葉する秋から春に葉をつける変り者で、毒があるためシカは食べません。

かっぴょろさん(第三話)

作、いつこう

観音様はスエを浅黄斑蝶に変えてくれました。空へと舞い上がる故郷の村へまっすぐに飛んで行きました。村に着くと、スエは我が家に向かいました。その日、母は外で畑仕事をしており、その周りをひらひらと舞うと、そっと背中をひらひらと舞うと、母は少し歳をとりましたが、スエは懐かしくてたまりません。

お母さん。会いたかったよ。母は自分の周りをひらひらと飛ぶ蝶が、まさか自分の娘のスエだとは知りません。それでも、綺麗な蝶に優しく目をやり、追い払ったりしませんでした。スエは母から離れがたく、観音様との約束もそっこのけで、何日も村にとどまり、花の蜜を吸いながら家や外仕事に出た母の周辺を飛び回っていました。やがて季節は晩秋となり、やっと観音様の元に帰ったのですが、約束を破った罰が待っていました。

願いを叶えてやったのに、約束を守れぬおまえは、醜く悪臭を放つ嫌われ者の亀虫になりなさい。

スエは浅黄斑蝶から、灰色をした小さな亀虫に姿を変えられてしまいました。それでも翅があったて飛べます。鳴く鳴く、スエは再び村まで飛んで行き、我が家に入ろうとしたところを母に見つかりました。

えい、この汚いじよる虫めが。母親は即座に踏み潰してしまったのです。

こうして、亀虫は今でも母を慕い、晩秋には家の中に入ってこようとして、じよるさんの由来は女郎なのかな？(おわり)